

いくほのカナダ留学 blog#8

7月1日に無事に日本に帰国し、今回は最終回、総括になります！

私の留学は、

“自分と向き合い、自分と勝負し、自分を乗り越える 11 か月”

であり、自分の人生を変えるほどの“**挑戦と発見**”であり、

英語を学ぶだけでなく“**自分の価値観を疑う時間**”でした。

変化と成長：

留学前の私は、自分の意見を言うことに少し臆病でした。間違えるのが怖く、人前に立ったり、注目を浴びたいすることが苦手でした。

今の私は、自分の意見をしっかり自分の言葉で伝えられるようになり、少し自信を持って人前に立てるようになりました。

印象的だった出来事：

初めてのダンスの授業で、自分の振り付けについての知識とコミュニケーション能力の無さが原因で、ペアでの振り付けが上手くできなかったとき、先生から「あなたはリーダーシップ生でしょ？振り付けと教えることができるのは基本。このくらいのことができないならリーダーシップクラスはまともにできないよ。」とフィードバックをもらったことをはっきりと覚えています。辛さと悔しさで、雨が降っているのに傘をほとんどささずに泣きながら家に帰りました。この日、初めてカナダで本当に心が折れました。このことがきっかけで、家で何時間も振り付けや指導について学ぶようになりました。それでも、うまくいかず、失敗して、先生に怒られることも、理不尽に怒られることも何度もありました(笑)。今では、留学生も現地の子と同じように指導してくれた先生だったなと思っています。

ダンスの先生と私→



留学の実際:

留學生活は、毎日がきらきらしているものだと思っていました。でも実際は、毎日が戦いで、戸惑いの連続でした。理解できない授業、うまく話せない会話、伝わらない気持ち。それでも、うまくいかない日々を過ごす中で、「生きた英語」に触れ、体験し、自分の中で、伝わらない、できないがやってみるに変わっていきました。留學中、何度も心が折れたけど、そのたびに折れた場所から強くなったと思います。

一番の学び:

一番の学びは、「間違えないこと」より、「やってみること」が大事だということです。完璧を目指して、何も話すことができなかった過去の私に教えてあげたいです。**正解よりも、自分の言葉で話す勇気の方が価値があると、今の自分は思います。**

帰国後:

留學を経て、「英語を話せるようになる」ということがゴールではなくなりました。英語を話せることはもちろん大切だけど、今は、カナダ史に興味を持っています。カナダが様々な過程を経て多民族国家になっていったように、将来は、国籍や文化の違いを越えて、誰かの力になれる仕事がしたいと思っています。

そのためにも、大学では、英語で授業を受け、大学在学中または、卒業後にもう一度カナダに留學することを目標に頑張っています。

最後に:

この留學を応援し、支え続けてくれた家族、先生方、友達、そして、カナダで出会ったホストファミリーや、先生方、友達に心から感謝を伝えたいです。

そして、留學を考えている方へ、不安もあると思いますが、一歩踏み出すたびに世界が広がり、その先には、“前の自分”では出会えない新しい景色が待っています。自分がそうだったからこそ、自信を持って“そこには素敵な景色がある”と伝えることができます。その景色に、ぜひ出会ってほしいです。

不定期のつたない投稿であったにも関わらず、最後まで見ていただき本当にありがとうございました！！

